

## 「小児歯科臨床 未来へのヒント」

九州歯科大学臨床教授

橋本 敏昭



### ■ 略歴

昭和 54 年	福岡歯科大学卒業後同大学小児歯科学講座助手
昭和 57 年	北九州小倉北区にて小児歯科医院開業
昭和 62 年	歯学博士（九州歯科大学 歯博第 256 号）
昭和 63 年	日本小児歯科学会認定医
平成 3 年	九州歯科大学非常勤講師、北九州小児口腔保健学会副会長
平成 4 年	日本小児歯科学会理事、同学会地方会副会長
平成 9 年	全国小児歯科開業医会理事
平成 11 年	顎咬合学会認定医
平成 14 年	北九州市歯科医師会専務理事
平成 16 年	九州歯科大学臨床教授

思えば日本小児歯科学会も創立以来 42 年目を迎え、私は現在ほぼその後半を学会と共に歩んできたこととなります。私が小児歯科医院を開業した昭和 57 年頃は子供を診療する歯科医が少なく、毎日重症患者で待合室は溢れ 2 時間待ちはざらという状態でした。また当時の保護者に定期検診など小児歯科の理念を定着させるのに多大なエネルギーを費やしました。そして啓発のためにと母親教室から始まりその後保護者教室に改名し歯磨き教室、間食栄養指導教室、子供歯科教室とそれぞれ担当を決め活動を続けてきました。スタッフとの連携を築き上げる上にも基礎となった時期で、活発な活動が繰り返されました。しかし時代が変わり定期検診も一般化し、齲蝕の減少と軽症化、当時は想像もできなかった少子化、医療制度改革、構造的不況などによって新しい時代へ向けて転換をしなければならなくなりました。しかし当時の当医院のシステムの主要部分である理念は、現在でもほとんど変わっていません。ただシフトしてきている部分が以前とは違っています。このシフトしてきている部分について、皆様のヒントとなるよう検討を加えたいと思っております。

小児歯科医院を開業して以来、治療方法、技術、機材等については時代と共に、また私の考え方の推移と共に変化して来ています。今回は特に大きな影響を与えた幾つかの術式、システムおよび最新の情報などをご紹介します皆様のヒントにしていただければと考えております。

また今回、小児歯科の将来について長期的な展望の下にレポートをまとめる機会を得ました。その内容の一部をご紹介します、皆様と共に今後小児歯科はどのように歩んでゆけばよいのかについて考えてみたいと思っております。私の独断と偏見によるところが強いと思いますが、主としてつぎのようなことを検討してみたいと思っております。

1. う蝕の軽症化、減少による診療内容の変化
2. 混合歯列期における歯肉炎の管理
3. 少子化による保護者意識の変化
4. 一方小児虐待に象徴される保護者意識の変化、特にネグレクトの増加問題
5. 小児歯科の専門性と小児歯科専門医制
6. 小児歯科の適性配置について
7. 医療財政的基盤の沈下と小児歯科への給付割合の増減
8. 「小児保健法」制定を念頭において
9. IT 化の推進と小児歯科
10. 咬合誘導、小児矯正歯科治療について
11. 小児の予防歯科診療は今後どうあるべきか
12. 混合診療と特定療養費の行方と小児歯科との関わり
13. 小児歯科医療の安全管理体制の整備について
14. 小児歯科の医療相談と苦情処理、医療訴訟への対策
15. 小児歯科のカルテ、レセプト開示に向けて
16. 小児歯科の院内感染予防対策
17. 総合的咀嚼器官の育成とその管理指導及び処置
18. 再生医療、遺伝子治療に対する期待

以上私の経験を通して感じた小児歯科臨床の現在、過去、未来について検証及び予測し、困難な時代をどのようにして切り開いていけばよいかについて示唆できれば幸いです。